

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・地域の核になる組合施工の商業施設が一部オープンするので、やや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・ボーナスシーズンを迎え、1年で一番消費が活発になる季節でもあり、また11月下旬からの好調な売上が続けば、今までの買い控えが一気にブレイクして昨年を上回る。
		百貨店（売場担当）	・来客数は前年比で変わらないが、客単価がこの1～2か月上昇している。また、コートの動きが非常に良く、今年の冬は寒いようなので、防寒用としてのロングコートの動きが良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・年末に掛けての受注関係も順調であるし、来月の価格改定等若干のプラス材料もある。また1～2月の新規取引予定もあり、売上は上向いてくる。
		家電量販店（店員）	・1月は新生活商品を求めて客の増加が見込まれ、また、来年はオリンピックイヤーなので、AV商品は伸びる。
		通信会社（販売企画担当）	・新商品の発売に伴う市場の活性化が見込まれる。
	テーマパーク（業務担当）	・冬のイベントが昨年に引き続き好評で、来月に掛けては天候さえもてばやや回復する。	
	変わらない	商店街（代表者）	・年末に掛けてのにぎやかさが感じられない。和牛博覧会などの全国規模のイベントがあっても、商店街の人通りにもあまり変化がなく、必要以上に物を買わないことが徹底してきた。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・今のところ、新商品開発もこれと言った物がなく、年末商戦も期待できない。
		百貨店（売場担当）	・前年暖冬傾向で苦戦した紳士衣料は若干期待できるが、婦人衣料・雑貨は年々早まるクリアランス待ちもあって、極端な寒波がない限り苦戦する。1月の日にちの並びも悪く、前年実績を追うのがぎりぎりとなる。
		百貨店（購買担当）	・食料品については、どういう状況になってもゆるがなく順調に推移するだろうが、衣料関係、特に子供服などはアパレル業界の動向を見てもこれといったヒット商品も見受けられず、例年同様のものを作っており、期待できない。
		スーパー（店長）	・値上げによる影響で、販売点数は若干下がると思われるが、逆に販売単価は上昇すると思われるので、プラスマイナスゼロで変わらない状況が続く。
		スーパー（総務担当）	・商品価格上昇はあるものの、来客数微増に加え、販売点数も微増ではあるが上昇傾向にあるため、しばらくは良い方向が維持できる。
		コンビニ（エリア担当）	・客の必要な物しか購入しないという状況は、今後も変わると思われない。
		家電量販店（店長）	・年末、正月商戦の量販店同士の激戦となり、非常に厳しい。
		家電量販店（予算担当）	・現在のところ気温が高い水準で推移しており、昨年ほどの暖冬ではないにしても、季節商材の動きに期待が持てない。
		乗用車販売店（統括）	・1～3月は毎年需要が拡大しているが、今年は前年を上回る要素がない。
		乗用車販売店（サービス担当）	・新型車は出るのが、高級車・特殊なものしか出ない。コンパクトカー等の量販車の新規モデルが出ないので販売量が増えない。
		乗用車販売店（販売担当）	・新商品の導入で販売はやや上向きに推移したが、新商品効果もそう長くは続かない。現在の状態がしばらくは続く。
自動車備品販売店（経営者）		・ガソリン価格の高騰により大きな期待はできないが、季節的な必需品の動きは堅調に推移する。しかしながら現状より良くなるかまでは、更に数か月先の動きを見るまでは判断できない。	
その他専門店〔時計〕（経営者）	・年末商戦に掛けて多少上向くと思うが、気候も悪くなり、購買マインドは不景気と相まって良くはならない。		
その他専門店〔カメラ〕（店長）	・生活必需品ではないため、しばらくは今のあまり良くない状態が続くと思われる。		
高級レストラン（スタッフ）	・今のところ予約はまずまず順調であるが、月によって波があり何とも言えない。		

	タクシー運転手	・12月にかけて運賃が値上げされそうであるが、はっきりしない。利用客も、運賃値上げになったら、利用回数を減らすという声が多い。ただし、現在の利用客は必要に迫られてタクシーを利用する客が8割くらいなので、今後も良くも悪くもなく、横ばいの状態が続く。
	タクシー運転手	・新たな観光スポット等への期待感があったが、各アクセスで割安の運行が実施され、タクシーの利用は思ったほどではなかった。そういった需要がこの先も膨らむことは望み薄で、このままの状態が続く。
	通信会社（企画担当）	・IP電話、OABJ電話、動画配信等、付加サービスの動きが鈍い。今後サービスの動きを上向きにしていける要素が、今のところは無い。
	通信会社（総務担当）	・年末に掛けて新商品・新サービスを導入するが、新規契約数は横ばいで推移する。
	設計事務所（経営者）	・建設関連に対する投資が全くない。業種転換が計れる企業は、ほとんどない。建設業者の農業への進出は、かなり難しい。よって改善策が無いなかで年の瀬を迎える状況である。
	設計事務所（経営者）	・手続の簡略化等、基準法改正内容の緩和が発表されたが、これによっても良くならない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・ガソリン代を含めいろいろな商品の値上げが予想され、かなり不安感が広がり防衛反応も働いて、今後の消費は良くならない。
	商店街（代表者）	・ガソリン代の高騰、増税等、インフレのように見受けられるが、子供服においてはひどいデフレ状態にあり、このギャップがますます広がる。中小零細小売業の生きる道は残されていない。
	一般小売店〔靴〕（経営者）	・ガソリン・灯油を始めとした来年早々の様々な生活必需品の値上げが、消費者の生活に大きく響いてくる。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	・得意先である飲食店の、忘年会や飲み会の予約状況が低調である。
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	・ガソリン代はもちろんのこと、印刷の紙代・インク代その他が上昇しており、価格を上げられない分、これから厳しくなる。
	百貨店（営業担当）	・冬本番を迎え、石油・灯油の高騰などが、消費を後退させることが予想される。現に手持ちの服の直しが最近増えている。
	百貨店（営業担当）	・原油価格の高騰により、ガソリン・灯油・空調費など、生活に密着した費用が増えるにつれ、百貨店取扱商品は影響を受ける。
	百貨店（販売促進担当）	・今後、クリスマス・年末商戦・初売りと大型商戦が控えているが、郊外大型店との競合激化、価格に対してのシビアな客の目、また取引先の生産調整による適品不足等、消費が上向き傾向にはなっていない。
	百貨店（売場担当）	・ファッション関連は気温の状況次第ではあるが、セールスの爆発力は年々下降気味である。また食料品関連も歳暮でどうなるか分からないが、逆風であることに間違いない。
	百貨店（販売担当）	・原油価格の高騰によるガソリンの値上げや、物価の値上げにより客の消費マインドが冷え込む。
	スーパー（店長）	・灯油など石油製品の値上げもあるが、12～1月と食料品の値上げも目白押しで、年末商戦にも影響が出る。
	スーパー（店長）	・原油の値上げによる、様々な食品の値上げが予想される。当然、客の買い控えも予想され、2～3か月先の景気の見通しは暗いものである。
	スーパー（店長）	・今月は競合店が店内改装のため20日間ほど臨時休業したので、来客数が増加したが、3か月先には新装開店の影響と、ガソリンや食品の値上げ等による買い控え等がある。
	スーパー（店長）	・原油の高騰などによる食品の値上げラッシュや、食の安心安全に関する相次ぐ不祥事問題で、食品に携わる企業にとってマイナス要素が多すぎる。
	スーパー（管理担当）	・原油高騰によりいろいろな物の値段が次々に上がり、消費者の財布のひもが固くなっている。また、年末年始に掛けガソリン高により帰省も少なくなると思われ、販売量の増加が見込めない。
スーパー（財務担当）	・1月以降仕入価格の上昇が続くものと思われ、買上点数の減少と客単価の下落が懸念される。	
スーパー（販売担当）	・現在でも商品の値上げが続いているが、年明けにも値上げの決定している商品もあり、いつまで値上げが続くか分からない状況なので、景気もやや悪くなる。	

コンビニ（エリア担当）	・競合店や異業種の出店により、既存店は厳しくなってきた。オーバーストアに更に拍車を掛けてきており、今後もよくなる傾向にはない。	
コンビニ（エリア担当）	・原油高騰に伴い値上げ商品続出で、来月からパンの値段も上がるので、買い控えの傾向はますます強くなり、回復の兆しはみえない。	
コンビニ（エリア担当）	・価格高騰に伴い、消費の冷え込みが予測される。	
衣料品専門店（経営者）	・ガソリンの高騰などの影響で買い控えが増える。	
衣料品専門店（地域ブロック長）	・年々気温の流れの予想がつかなくなり、冬物の動きが遅れると思われるので、売上はかなり悪くなる。	
家電量販店（店長）	・接客中に客の景気の先行き不安感が大きく感じられる。原油高から様々な商品の値上がりなどもあり、将来に危機感を抱いている。	
家電量販店（店長）	・競合他社の出店によるパイの奪い合いが激しく、価格競争に拍車が掛かり売上高、利益共に厳しい状況となる。	
乗用車販売店（経営者）	・このまま燃料が高止まりになると、一段と買い控えが多くなってくる。また、円高の動きも懸念され、今後もやや悪い状態が続く。	
その他専門店〔布地〕（経営者）	・原油の値上がりで、様々な商品が値上がり、更に財布のひもが固くなる。	
その他専門店〔スポーツ〕（経営企画）	・仕入原価の上昇による売価の上昇で、販売量が減少すると思われる。	
一般レストラン（店長）	・ファミリー層の外出控えを非常に感じており、これが続く。	
一般レストラン（店長）	・原油価格高騰の影響で、食品や日用品の値上げが各社で行われ、外出の頻度が落ちてくる。	
スナック（経営者）	・来月は忘年会シーズンだが、飲酒運転の取締りは厳しく、タクシー代も高いということで、食事がメインの一次会だけで帰ってしまうようだ。我々の店はあまり期待が持てない。	
その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・食の安全の問題が続いており、外出が敬遠される傾向が出てきた。	
観光型ホテル（スタッフ）	・シーズンが終わり、今年は大きなイベントも無いため、先の動きに期待できない。	
観光型ホテル（経理総務担当）	・取引先からの納入価格の値上げ通告、依頼が続き、原価を押し上げている。一般市場でも、物価上昇の気運は定着しつつあり、財布のひもは固くなる。外出、旅行業界が真っ先に影響を受けるのではないか。	
都市型ホテル（スタッフ）	・忘年会は安くできるお店が多くなっており、このため客単価はどんどん下がっている。	
都市型ホテル（総務担当）	・重油の高騰がどの程度食材等に転嫁されるか不透明であり、それを即価格転嫁はできない。経営的に言えばマイナス要因であり、また客にも先行きに対する不透明感があり、大きくプラスに動く傾向ではない。	
通信会社（通信事業担当）	・加入キャンペーンの出足が非常に悪く、新規加入数が好転する要因も、今のところ見当たらない。	
テーマパーク（広報担当）	・ガソリン代が高騰しているせいか、中距離くらいのドライブ客が減っている。全体に節約傾向にあり、園内でお金を使わない客が増えており、この傾向は止まらない。	
ゴルフ場（営業担当）	・景気回復のきざしもなく、今年の冬は雪が多いという予報も聞いたので人の動きは悪くなる。	
設計事務所（経営者）	・建築基準法の厳格化は徐々に緩和されてきてはいるものの、以前のようなスピードでは業務はこなせない。また、建築資材の価格も下がる見込みがない。	
住宅販売会社（従業員）	・受注減に加え、原材料のコストアップが全体的に進んできており、これから先も続く。	
住宅販売会社（経理担当）	・サブプライムローン問題による消費者心理の冷え込みや建築基準法改正による影響がまだ続く。	
悪くなる	商店街（代表者）	・今の商店街の方向性からして良くなる要素がない。既存の商店主の言動を見聞きすると、今後の商店街の行く末が怖くなる。
	スーパー（店長）	・原油高騰の影響からあらゆる物が値上がりしている状況では、我々が取り扱う生活雑貨用品は特に買い控えられる傾向にあり、今後厳しい状況が続く。
	コンビニ（エリア担当）	・ガソリンの値上げで、客の行動が鈍くなる。

		住関連専門店（広告企画担当）	・原材料などの値上がりも続いており、今後良くなっていく気配がない。
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・顧客からの増産要求により、設備能力向上策を施した上でもなお、3連操による24時間生産対応を迫られる職場が出てくる。
	やや良くなる		
	変わらない	化学工業（総務担当）	・物流費や原燃料費高等の影響はあるものの、当面現状を維持する。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・現在手持ちの注文は2008年上半年期までの分割納入のものがあり、生産量の下支えとなる。原油高の影響で各種原材料の高騰が見込まれ、この影響額の価格転嫁が大きな課題となる。
		鉄鋼業（総務担当）	・アジア地域の輸出は堅調だと考えるが、米国のサブプライムローンの問題や円高基調が懸念材料である。
		鉄鋼業（総務担当）	・国内はおう盛な海外需要を背景に、自動車・造船・建産機などの製造業向けが堅調に推移しているものの、建築基準改正法に伴う住宅着工数の減少により、一部品種は減産を行っている。海外はアジア経済が拡大基調にあるものの、米国のサブプライムローン問題などにより景気後退の懸念がある。
		電気機械器具製造業（広報担当）	・これからも受注が確保できる見通しにある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車は好調維持の見込みだが、家電・携帯関連に力強さが見られない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・自動車産業が好景気で高水準の生産を継続しているため、それに付随してクライアントからの要望も、この先引き続き好調に推移する。
		建設業（経営者）	・公共工事も抑えられたままであるし、建築確認の難しさも影響して民間建築も全く振るわない。また、我々の事業の一環でもある産業廃棄物の搬入も今年の夏以降落ち込み、回復のめどが立っていない。このまま悪い状況が続く。
通信業（営業企画担当）	・地場主体企業等のネットワークサービス利用の動向は当面積極的な動きに転じると思えない。特に製造系などの一部業種以外は新規投資を抑えて様子をうかがうような状況がしばらく続く。		
金融業（業界情報担当）	・サブプライムローン問題から米国経済の失速が懸念されるが、欧州・アジア圏では引き続き需要好調で、当面は高水準の受注が続く。		
やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・食品業界は厳しい目で見られ、書面での仕事が増え、大量生産につながらず利益・売上共に上がりにくい現状が続く。	
	金属製品製造業（総務担当）	・取引先の説明会で、中長期（3～5年）に向け、増産対応との話があった。しかしながら他業種の得意先の説明会では、今後半年先は減少する可能性を示唆された。全体としては、中長期的には上昇への方向性には変わりはないが、調整局面に入っていく。	
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内市場の冷え込みによる売上の減少と、生産資材の高騰による生産コストの悪化は、当面続く。	
	その他製造業【スポーツ用品】（総務担当）	・原油の値上げがまだまだ続く見通しであり、流通・原材料・加工コストに波及してくる。一部業界（輸出企業）は好調だが、国内は消費動向も低迷しており、明るい兆しが全くない。	
	会計事務所（職員）	・6月の建築基準法の改正により建設業界は不振だが、建築単価が上昇気味の気配がある。建売物件の購入を検討している客に対して、当初予算の範囲内で収めようとすれば土地の値段を下げざるを得ないため、土地価格の上昇傾向にブレーキが掛かってくる可能性がある。	
	コピーサービス業（管理担当）	・外注よりは自社で行う傾向が強くなり、自社内ではできない複写は量が少なく、設備投資の回収ができない位であり、複写そのものの需要がこの地域では見込めなくなっている。	
悪くなる	-	-	
雇用関連	良くなる	職業安定所（雇用開発担当）	・新規求人数は前年比で減、有効求人数は前年比で微増であるが、求職者については、8月以降3か月連続して減少しており、求職者を取り巻く就職環境は、更に改善する。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（担当者）	・今までの方策では人材が確保できず、採用活動計画において従来の手法以外のものを検討する様子が企業に見られる。
		民間職業紹介機関（職員）	・自動車関連では相変わらずコストの低減は要請されるものの、規模の経済を生かし特に海外向けに対し量産体制が築けるので、人材の要請は引き続き活発となる。

変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・外部要因による景気減速懸念を受けて、企業の採用意欲もいったんは収まる可能性がある。また現時点である程度人員が充足してきた感があるため、このペースでいくか、もしくは若干減速傾向で推移していく。
	求人情報誌製作会社（支社長）	・各企業の求人意欲はあり、これがそのまま継続される。
	学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人数は昨年よりやや増加傾向にあるが、職種が限られ、また学生が就職先として望まない派遣社員の求人が多い。
やや悪くなる	人材派遣会社（担当者）	・採用意欲は高いものの、人数的なものではなく質的なものに絞られている。団塊世代の退職の補充を除けば、数ではほぼ充足感があるため、今以上に拡大するほどの勢いではない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・消費意欲が減退していることと、企業も経費削減でいろいろな取り組みがなされている。こういったことから採用意欲もあまり良くはならない。
	職業安定所（職員）	・一向に上向かない景気の中、原油価格・素材価格の高騰が企業収益の悪化に直接つながっており、増員求人がほとんど見られない状況が続く。
悪くなる	-	-